

未来への“かけ橋”に寄せて

「総合計画は、北海道の現在と未来をつなぐ“かけ橋”のグランドデザインである」と私は思っています。

この“かけ橋”の対岸には、北海道の強みを活かした持続的な経済成長のもと、人々が互いに尊重し合い、だれもが活躍でき、将来にわたって安全で安心して心豊かに住み続けられる、活力あふれる地域社会が広がっています。

平成 28（2016）年度にスタートした総合計画は、全国を上回るスピードで人口減少・少子高齢化が進行し、地域の存亡に関わる危機に直面する中、アジアをはじめとする世界経済の成長とグローバル化の進展を追い風に、世界に誇る食や観光を中心とした産業競争力を強化し、地域の持続的な発展につなげていくという戦略を掲げ、私たちは、その“かけ橋”を築きながら対岸をめざしてきました。

そうした中、新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、多くの尊い命が失われるとともに、私たちの社会や経済に様々な影響を及ぼすという、未曾有の事態に直面しました。

新型コロナウイルス感染症という「激流」の威力はすさまじく、今までの“かけ橋”では対岸への到達が危ぶまれる事態となりました。

そこで、今回、総合計画の内容を見直し、「危機に対する強靱な社会を構築」、「北海道の真価の発揮」、「社会の変革への挑戦」という3本の支柱で補強することで、“かけ橋”を「激流」に負けず、さらに明るい未来へとつながるしなやかなものに作り直すことといたしました。

総合計画の見直しについて知事から諮問を受けた当委員会は、こうした方針の下、道民が一丸となってコロナ禍の逆境に立ち向かっていくための未来戦略を構築するという使命感をもって、真摯に議論を重ねてきました。

総合計画のめざす姿は、「輝きつづける北海道」です。縄文文化やアイヌ文化など、独自の歴史・文化を育んできた私たちの北海道は、たゆまぬ努力により、わずか1世紀ほどの間に、ヨーロッパの一国にも匹敵するほどの社会へと、世界にも類を見ないほどの変貌を遂げました。今、北海道は、優れた自然環境を活かした観光や、豊富な再生可能エネルギー資源、豊かで良質な食などの様々な強みにより、日本、そして世界に向けて輝きを放っています。現在を生きる私たちには、その輝きにより磨きをかけ、育て、次世代に引き継ぐ責務があります。

今回、我々は“かけ橋”を補強する設計図を作りましたが、それを完成させるためには、行政のみならず、企業・団体、そして道民の皆様の知恵と力の結集が不可欠です。激流にひるむことなく、皆が連携・協働し、次代を担う子どもたちが笑顔で安心して、ふるさとへの誇りと愛着があふれる未来の北海道へと渡っていける“かけ橋”を築こうではありませんか。

令和3（2021）年9月

北海道総合開発委員会委員長 寶 金 清 博